令和4年度旭川未来会議2030子育て分野 第1回分野別会議 会議録

- 1 開催日時 令和4年4月27日(水) 午後6時から午後7時30分まで
【見学】午後6時から午後6時45分まで
【会議】午後6時45分から午後7時30分まで
 - 2 開催場所 【見学】ツルハ旭川中央ビル(旭川市1条通8丁目)
【会議】旭川市子ども総合相談センター 2階 研修・会議室1・2
(旭川市10条通11丁目)
 - 3 出席者(参加者) 會田さやか
小林香澄
早川由理
丸山恵理
吉田育子
※敬称略, 五十音順
※松澤美沙, 山田覚は欠席
 - 4 出席者(市側) (運営事務局)
子育て支援部 浅田部長
竹内次長
子育て支援課 高橋課長補佐, 清原子育て企画係主査
おやこ応援課 川村課長, 柴田主幹, 堤課長補佐, 宮城こども健康係主査
(統括事務局)
総合政策部 熊谷部長
広報広聴課 中屋課長, 山本広聴係長, 乙坂広聴係主査, 広報係 村田
政策調整課 廣岡主査
 - 5 会議の公開・非公開 公開
 - 6 傍聴者 2名(報道機関: 2名)
 - 7 意見交換
※進行役: 吉田育子
- (1) 議題「(仮称)あさひかわおやこひろば」について
- ア 施設全体について
(参加者)
 - ・室内について, 壁などがいわゆる市役所的だとお母さん方は利用しにくいと思うので, 色や柄があるとよい。

- ・通路の壁などに、感触遊びができるような工夫があるとよい。
- ・立体駐車場との連絡通路について、階段になっており利用しにくい。

風除室のドアも重いので、子どもと一緒にのときや荷物を持っているときは利用しにくいと感じた。

(参加者)

- ・駐車場の連絡通路に隙間があり、子どもが手や足を入れたりすると危険。
- ・おやこひろば室内について、子どもが普段と同じ状態で健診が受けられるように、興奮しすぎない、緊張しすぎないような空間の工夫やおもちゃなどを考える必要がある。

(参加者)

- ・車いすを使用する子どもがいる目線で見学したが、駐車場からの連絡通路は、スロープが付いたとしても、開き戸があるため、車いすでの利用は難しい。車いすやベビーカーでも入りやすいようになるとよい。
- ・おやこひろば室内についても、車いすやベビーカーを使っていたり、小さい子ども連れでも利用しやすいような配慮があるとよい。

(参加者)

- ・遊びの空間については、窓が大きく開放的で日差しも入るつくりを生かした場所になるとよい。
- ・きょうだいを連れて健診に行くことを考えると、駐車場からの連絡通路はドアも重く、風も吹き込むので危険に感じた。
- ・遊びの空間の横を通過して健診スペースに行くことになり、特に1歳半の子どもだと気持ちの切り替えが難しい場合もでてくると思うので、興奮せず、リラックスして健診が受けられるような工夫があるとよい。

(参加者)

- ・おやこひろばに入るために、駐車場、エスカレーター、エレベーターからの3つの動線があるが、もともと作られていたから仕方ないと言い切れないところがある。
- ・妊婦や子どもを抱っこしているお母さんは足下が見えないので、駐車場の連絡通路にあるような少しの段差でも危険になる。
- ・エレベーターも意外と狭かったため、この3つの動線になるのであれば、運用に工夫が必要と感じた。

(参加者)

- ・乳幼児健診に来て危険な目に遭うことはあってはならないので、皆さんの意見を受け止めて、出入口など安全面の確保をお願いしたい。
- ・駐車場との連絡通路のドアが重く、今日も風が強かったが、ドアが押されて指や体が挟まれると本当に危ないと感じたので、タッチスイッチ付の自動ドアだと望ましい。
- ・遊びの空間は日当たりもよくいい雰囲気だが、出入口近くにあるため、子どもが遊んでいるときに走って出て行ったり、飛び出したりしないか心配になったので、その安全面も配慮してほしい。
- ・健診会場はにぎやかになると思うが、そうした環境が苦手だったり、パニックになる子どももいると思うので、そういう子どもが気持ちを落ち着けたりできる工夫があるとよい。
- ・入ってすぐに遊びの空間があるのは楽しくてよいが、健診受診の視点から考えると一つのハードルになると思う。
- ・おやこひろばに入るために靴を脱ぐのか、脱ぐのであればどのようなようになるのかも気になった。

(参加者)

- ・大半の人が車で利用することになると思うが、駐車場の確保はどのように考えているか。駐車環境で利用しやすさの印象が変わると思う。
→ (事務局) 見学してもらった立体駐車場のほかに、周辺の平面駐車場の確保についても検討している。
- ・大きい車に乗っている人も多く、立体駐車場に苦手意識を持っている人もいるので、平面駐車場を確保する考えを聞いて安心した。

(参加者)

- ・遊びの空間について、普段は遊びに来ることになるため、健診で来たときも遊びたくて落ち着かなくなる子どもは多くなると感じた。
- ・遊びの空間と健診場所を、例えば廊下を挟んだ左右に分けられれば気にならないのではないか。遊びの空間の出入口はどのようになるのか。
→ (事務局) 入りやすいようにしたいと考えている。
- ・入りやすいと子どもは健診の日でも遊びたくなるので、一般の人にも利用してもらいやすくする方法との両立が難しいと感じた。

(参加者)

- ・資料の設置イメージに遊びの空間と書かれていたので、いかに楽しく遊べる空間にするかという先入観があった。
- ・健診がメインの場所になるのであれば、子どもが楽しくて仕方ないという場所には、あえてしないという考えもあるのではないか。
- ・親子でリラックスして過ごすことができるというコンセプトはよいと思うが、楽しそうなおもちゃを置くよりは、落ち着いてスムーズに健診を受けたり、相談ができるような場所にするのもよいのではないか。

(参加者)

- ・健診を優先すると一般の人が入りにくくなるし、遊びを優先すると健診がスムーズに受けられなくなると思うので、どうすればよいか難しい。
- ・自分の子どもが小さいときにこうした場所があると、健診のときでも遊んでいたと思うし、健診じゃないときは少し走ったりできる場所があればうれしいと思っていた。

(参加者)

- ・遊びの空間の活用については、次回会議の議題になると思うが、今日の意見を踏まえた見直しが必要ではないか。
- ・1歳半や3歳半だと目先の興味に惹かれるし、3歳半だとそこがどういう場所になるか覚えているので、開放的にするか、壁で死角をつくるかなど煮詰める必要がある。
- ・壁にした場合、入りやすくするように色や柄などの工夫が必要。